

## 枚方市子ども・若者支援地域協議会・実務者会議（ひきこもり等地域支援ネットワーク会議）にていただいたご意見

6月、8月に実施した会議にて、「子ども・若者育成計画」を通して学ぶをテーマにグループ検討を行い、参加関係機関の方と3つの項目を設定して意見交換を行いました。その中で出た主な意見が次の通り取りまとめられました。

令和4年6月16日（木）14時～16時 ラポールひらかたにて 参加者：26名  
令和4年8月25日（木）14時～16時 ラポールひらかたにて 参加者：22名

### ① 支援情報や社会資源をどう届けて、どうつながってもらおうか

- ・ひきこもり実態調査、実態把握と同時に、市民への啓発にも繋げることができる。
- ・市役所のホームページを工夫し、ワンクリックでひきこもりや不登校相談の窓口、支援マップへのリンクや、チャットができるようにする。支援に関する様々なチラシを一覧表示し、ダウンロードしやすいようにするといったのではないかな。
- ・大阪市でやっているLINE相談を参考にし、枚方市でも実施してはどうか。
- ・青少年サポートマップに何が掲載されているか分かりやすくするため、「枚方市子ども・若者困りごと相談マップ」のように名称を工夫する。地図は小さくして、相談例を提示して内容に応じた支援機関に矢印でたどれるようにする等、レイアウトも工夫する。
- ・中学校や高校の教職員や生徒を対象に、枚方市の子ども・若者支援の現状を説明する出前授業を実施する。卒業や中退後の問題の長期化を防ぐため、教職員に支援情報を知ってもらうことに役立てる。
- ・家族会の案内を教育委員会経由で各学校に届けたり、当事者の親と教師の交流会の場を設けたりしてはどうか。
- ・適切なタイミングで、正しい情報を届けられるよう、支援者は情報を出す順や見極めにも配慮する。
- ・ネットワーク会議の場をうまく活用して、構成機関がそれぞれの役割を正しく知り、どこかの機関につながりさえすれば、適切な機関につながっていけることが重要である。

### ② 就労・就職に向けた取り組み

- ・クラウドファンディングの活用も含め、当事者が立ち上げる就労の場を支援してはどうか（簡単なリフォーム、ITを使った業務受託、農業支援など）。
- ・中間的就労の場作りの支援が必要。行政の中で短時間就労の場所を設けることでモデルケースを作り、そのノウハウを企業に紹介するなどして広げていく。
- ・市が主催する企業合同説明会にひきこもりコーナーを作って啓発と就労支援を行うなど、機会をとらえて主催者とタイアップした取り組みが重要である。
- ・社協との連携などにより、介護・福祉の仕事の掘り起こしを行う。
- ・学校卒業から就職への接続部に注目し、職に繋がっていない若者の存在を把握することも大事である。
- ・働くことへのイメージや自信を持てるよう、早期の段階から職業体験や資格取得のセミナー等の機会を設ける。

### ③ 地域社会のつながりの中でできること

- ・中学校区ごとに、重層的な居場所（子どもから高齢者まで利用できる場所。既存の設備を活用する）を作る。横串を刺すコミュニティ再生につながるのではないかな。
- ・発達障害やうつ、統合失調症などの当事者や家族向けの学習会を企画する。
- ・適応指導教室ルポを、民家を借り上げて複数化（京阪沿線と JR 沿線など）することで、様々な雰囲気
- の教室が作れるのではないかな。
- ・発達障害や精神障害などに理解のある雇用先を増やしていく。
- ・例えば、民生委員と連携し、各支援機関のパンフレットをポスティングしてはどうか。その際には、ピンポイントで校区を絞っていくのが効果的ではないかな。
- ・地域とつながる場として、子ども食堂と連携ができるとよい。「ありがとう」と言われる経験が自信にもつながる。